

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る <small>小項目(はぐくみたいか) ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	①言語活用能力・ICT活用能力	充実	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表本数	校内386 校外4	校内400 校外10	校内38 校外5	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	94%	100%	87.3%	B	充実	すべての項目において、極めて高い目標値を掲げ、高いレベルで取組を実践している。加えて、それぞれの取組をさらに充実させるべく、内容を吟味しようとしている点をまずは評価したい。 言語活用能力や英語運用能力の育成においては、学校外部での発表や留学生との交流といった、コミュニケーション力を育む活動の活性化を図り、着実に成果を上げている。 異文化交流の充実を図るとともに、神戸での防災フィールドワークなどの社会貢献意識を育む取組も行われている。 新入生対象の合宿は、チームビルディング研修として、仲間づくりをはじめ、京大アメフト部との関わりから学習意欲をかきたてる内容となっている。 今後もこのような人間関係作りを進め、他者と協働した学びを通して、生徒の多様性・協調性・主体性の育成に努めてもらいたい。	AA
			②英語運用能力	充実	学内留学講座の実施	参加者数	44人	60人	129人	A	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	91%	100%	96.2%	B	拡充		
			③英語運用能力	充実	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	515人	600人	818人	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	84%	100%	87.8%	B	充実		
		II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ <small>小項目(はぐくみたいか) ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力</small>	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	充実	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計	83人	100人	91人	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	100%	100%	100%	B	充実		
			⑤共感性・協調性	充実	チームビルディング研修の実施	参加者数	1年生全員	1年生全員	1年生全員	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の98%	参加者の100%	97.2%	B	充実		
			⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	充実	学校行事の充実	学校行事における生徒の参加率	100%	100%	100%	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	全校生徒の90%	全校生徒の100%	87.6%	B	充実		
	共通の取組	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす <small>小項目(はぐくみたいか) ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	⑦高い志を育む	充実	各界リーダーによる講演会の実施	講演の回数及び講座数	10回 42講座	10回 50講座	18回 46講座	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の93%	参加者の100%	93.9%	B	充実	SGHの活動では、アジアの国づくりをテーマとし、豊かな国際感覚を有したリーダー育成の実践が進められている。各界リーダーによる講演会、若手研究者による学部・学科ガイダンス、社会人による職業ガイダンスなど、キャリア教育に関しても実に多くの分野の講座を開講している。各界に著名人を輩出している伝統校ならではの取組がますます充実してきていることは高く評価できる。 指導力の向上に関しては、これまで教員の自己研鑽に負うところが大きかったため、世代交代が進む中、良き伝統をいかに継承させるかが課題であった。 しかし、「ひろく」をキーワードとした校長のマネジメントにより変化の兆しが見られる。他校教員を含めた互見授業や研究授業、保護者や他校教員への公開授業の実施などを進めており、これまで北野高校になかったムーブメントとして、今後が楽しみである。	AA
			⑧キャリア教育の推進	充実	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	100%	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の93%	参加者の100%	90.9%	B	充実		
			⑨高大連携の推進	充実	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	596人	600人	693人	B	取組み実施後のアンケートや感想による生徒の肯定的評価	参加者の90%	参加者の100%	93.8%	B	充実		
		IV. 教員の指導力向上をめざす <small>小項目(はぐくみたいか) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他</small>	⑩授業力向上	充実	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	全教員の81%	100%	62.9%	A	授業アンケートや感想による生徒の肯定的評価	全校生徒の83%	全校生徒の90%	84.2%	B	充実		
			⑪若手教員の指導力向上	充実	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	8回	10回	18回	A	参加教員のアンケートや感想による肯定的評価	参加教員の100%	参加教員の100%	100.0%	B	充実		
			⑫授業力・指導力の向上	充実	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	515人	600人	564人	B	見学者のアンケートや感想による肯定的評価	見学者の98%	見学者の100%	98.8%	B	充実		
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較					学力調査の結果からは、高い学力を維持できる生徒が多いものの、ここからさらに伸ばさせるには、現状を分析し課題を明確にする必要がある。 大学入試センター試験の受験者率や得点率は高い水準を維持できている。	AAA	
		大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	90%	95%以上	94.7%	B			維持
		大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率の平均	77%	80%	78.9%	B			維持
	VI. 課題研究活動	課題研究活動									学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	2件	3件	1件	B	維持	課題研究活動については、SGHの取組等から校外の発表機会が今後さらに増えていくと考える。 コンクール・コンテスト等の入賞者数については、全国レベルの活躍が目標値を大きく超えたことは評価に値する。	B
		コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①府レベル7人 ②全国レベル1人	①府レベル10人 ②全国レベル2人	①府レベル2人 ②全国レベル9人	B	維持		
	VII. 英語運用能力	TOEFLIBT									TOEFLIBTスコア ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	-	①5名以上 ②10名以上	①1名 ②0名	C	拡充	SETの配置が英語教員への刺激となっていることであるが、TOEFLIBTについては、iBTチャレンジを含め、学校の取組として、もっと組織的に参加してもらいたい。今後の取組に期待する。	B
		TOEFLIBT以外の英語外部検定試験									TOEFLIBTチャレンジ受験者スコアの平均点	43点	45点以上	46.1点	B	充実		
	VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学									スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)	127人	160人以上	149人	B	充実	国公立大学現役進学者数は大きく増加、またスーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)についても増加した。 目標設定が高いため、自己評価は低くなっているものの、十分評価に値する。増加の要因を分析し、さらに取組の充実を努めるなど、今後に生かされたい。	AAA
		進学実績									難関国立大学(東大・京大・阪大)現役・浪人合格者数	111人	150人以上	126人	B	充実		
		国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	124人	150人以上	155人	A	維持		
		海外大学への進学									海外大学進学者数(1浪含む)	2人	4人	0人	C	充実		

総合評価

明るく近代的なデザインの学舎、図書館や同窓会ホールなど、恵まれた豊かな学びの空間のもと、伝統に甘んじることなく、「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育てるため、校長のマネジメントにより教育活動の充実を図るとともに、教員は授業力・指導力の向上に向け、たゆみなく工夫改善を続けている。
あえて課題を指摘するならば、人間関係作りをさらに進め、他者の学びを促すことのできるリーダーを育成し、より高度な学びに向かわせる指導が求められよう。
そのために、社会をリアルにとらえることのできる力を育成するため、他者との対話を促すような機会をさらに増やしてもらいたい。北野高校の取組はすでに完成形に近いと考えるが、大阪府のリーディングスクールとして、他校のけん引役を担うためにも、これからもより一層、取組の充実を図ってもらいたい。

AA

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立	継続	桃陰セミナー、部学習日など（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数 部学習日実施回数	22回 15回	前年度と同じ回数（土曜授業実施のため事実上は増加）	20回 15回	B	桃陰セミナー1日当たりの平均参加者数。 部学習日の各部ごとの実施回数	316名 年13回	前年度と同回数（土曜授業実施のため実質増加）	289名 年2.5回	B	継続	学力の向上をめざし、アクティブラーニングを進めており、実際に授業で教えあいをしている生徒の興味深い学習活動を見学した。学ぶ側から教える側に立場を替えることから学びを深める取組であるが、客観的な成果、教員の指導力の向上をどのように検証するかが必要であろう。 英語運用能力についてはTOEFLを活用した英語授業・土曜講習の実施により成果を上げており評価する。	AA
		②基礎学力の充実・確立	充実	天高スタンダードの充実（各学年で達成する学力基準）及び学力育成プログラムの作成	スタンダード達成基準の見直し、学力育成プログラムの作成、自主教材の作成。指名補習の実施。	自主教材（国・世・数・化・英）	各教科より良き改訂を目指す	自主教材（国・世・数・化・英）	A	スタンダード達成基準の明確化 独自教材の作成教科の増加	学力育成プログラムの改訂。作成教科増加0	学力育成プログラムの改訂。独自教材の増加	学力育成プログラムの改訂。作成教科の増加は0	A	継続		
		③英語運用能力	継続	イングリッシュキャンプの実施。TOEFLを活用した英語授業を実施。TOEFLを活用した講習を土曜日に実施。	参加人数で評価。TOEFLを活用した土曜講習への参加者。	イングリッシュキャンプ55名	2年生の参加者の増加。そのための内容の充実	イングリッシュキャンプ32名	B	TOEFLを活用した土曜講習の実施回数と参加した1日当たりの参加者数。	18回 41名	2年生の参加者の増加。そのための内容の充実	20回 ×2講座 40名	A	再編		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくくむ	④人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成各種講演会、ワークショップの実施	各種講演会の回数 ワークショップの回数	5回 3回	5回 3回	5回 3回	A	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	90%	90%	90%	A	継続	野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの各種行事や講演会、ワークショップが実施され、生徒の満足度は概ね高い。 今後の効果的な実施に向け、それぞれの取組が3年間でどのよう役割や意味を果たすのか、どう有機的に結びついているかの検証が必要であろう。	AA
		⑤チームでの取組	継続	天高育成プログラムで示される力の育成野外生活体験学習、水泳訓練、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	90%	90%	85%	B	継続			
		⑥日本古来の伝統に触れる。（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成能楽鑑賞、文楽鑑賞	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	A	行事ごとの生徒アンケートにより満足度	90%	90%	90%	A	継続			
	III. 高い志をはくくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	充実	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	2024	1800	1754	A	部活の加入率	100%	100%	100%	A	継続	高い志を育む取組として、京都大学や大阪大学への見学会、各界で活躍する卒業生による社会人講演会、天高アカデミア等が継続的に実施されている。 国際交流では海外セミナーに加え、台湾の高校との交流を始めるなど拡張の向きがある。科学オリンピック参加者数も増加しており、高い志を育む様々な働きかけが用意され、実績も上げており、評価できる。	AA
		⑧高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成大阪大学見学会、京都大学見学会、社会人講演会、学部学芸説明会 天高アカデミア等	講演会の実施回数	天高アカデミア12回	天高アカデミア12回	天高アカデミア13回	A	各見学会や講演会参加者のアンケートの満足度（非常に満足、満足合計）	90%	90%	90%	A	継続		
		⑨海外セミナーの実施	継続	SSHを活用した海外研修。ARVARD,MIT,CAMBRIDGE,GLHSを活用した海外研修。(CALTEC,UCLA等)独自の取組による海外研修。	生徒の満足度。（非常に満足、満足合計）	100%	100%	100%	A	海外セミナーに参加した生徒の内、将来、海外留学を希望する割合。	93%	93%	98%	A	再編		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究事業の実施 授業参観日実施	充実	他の教員の授業を見学する。授業公開習慣を設置する。研究授業を行う。	研究授業の回数。教員1人当たりの授業見学回数。	研究授業は延べ17回 授業見学平均4.8回	昨年の回数を保ちながら協議の時間も設ける	研究授業は延べ19回 授業見学平均5.7回	A	生徒の授業の授業アンケート（満足度）	84.3%	85%	第1回84.3% 第2回86.0%	A	継続	各教科で自主教材を作成し、天高スタンダードとして毎年見直しを行うなど、継続的に授業力・指導力の向上に取り組んでいる。 教科指導研修会や桃陰塾として経験の浅い教員を対象とした研修会も定期的実施されている。 今後は、生徒や教員へのアンケート結果が目標に達しなかった原因分析などを行い、質の向上や内容の精選など、さらなる取組の充実に取り組まれない。	AA
		⑪他府県の先進校見学 教科指導研修会の実施	継続	大阪府内外の先進的な取組を行っている学校を視察する。また、外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	視察校の数。外部講師により教科指導法講座の回数。	視察校3校 外部講師による教科指導法講座5回	昨年の回数を維持し、参加者の増加を図る	視察校3校外部講師による教科指導法講座8回	A	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教材、教え方の満足度）	91%	91%	89%	B	継続		
		⑫新採用や経験の浅い教員対象の研修会	継続	桃陰塾として実施する。	月に1回実施する。	7回実施	8回実施	7回実施	B	天高の教員になる。（歴史と伝統、校風理解及びチーム天王寺の自覚についてのアンケートによる。）	95%	95%	83%	B	継続		
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								平成27年度実績と平成28年度実績を比較						学力調査の結果については、特に2年次において伸長がみられる。 大学入試センター試験についても、5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合を伸長させており、今後の指導の継続ならびに充実を期待する。	AAA
		大学入試センター試験への参加								大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	358名中、337名 94%	限りなく100%をめざす	353名中、336名 95%	A	継続		
		大学入試センター試験の結果								5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	117名 (34%)	全体の40%	126名 (37.5%)	A	継続		
	VI. 課題研究活動	課題研究活動								全体発表会	クラス内の勝者の発表	質疑応答を含めたフィードバック	分野別勝者が全体で発表	A	継続	科学グランプリ全国大会金賞・銅賞、日本生物学オリンピック銅賞など、全国規模のコンクール・コンテストへの参加者数、入賞者数ともに高い水準で維持できている。今後も生徒の学びのモチベーションを高めるよう課題研究の指導を充実させたい。	AAA
		コンクール・コンテスト等の成果								全国規模のコンクール・コンテスト等の①受験者数 ②入賞者数	①157名 ②5名	①157名以上 ②5名以上	①127名 ②6名	B	継続		
	VII. 英語運用能力	TOEFLiBT								TOEFLiBTスコア ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①2人 ②11人	①4人 ②20人	①3人 ②17人	B	継続	英語運用能力に関して、各種の取組を実施している。また、TOEFLチャレンジテストの結果もめざましく伸長している。今後の進展が楽しみである。	AA
		TOEFLiBT以外の英語外部検定試験								①実用英語技能検定	①2級以上 22名	より高い級を目指させる	①2級以上 31名	A	継続		
	VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学								スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	140名	150名	137名	B	継続	進路希望達成率、国公立大の現役進学者数が目標値を上回ったことに加え、海外大学進学者も2名出すなど、実績をあげている。医学科志望者が多いとのことであるが、今後も様々な分野において、日本また世界を動かすグローバルリーダーの育成に尽くされたい。	AAA
		進学実績								進路希望達成率（年度当初の希望の達成率）	18%	20%	22%	A	再編		
		国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	135名 (38%)	全体の40%	159名 (44%)	A	継続		
										海外大学進学者数（1浪含む）	0名	受験者を出す	2名	A	継続		
	総合評価				様々な教科の学びにアクティブラーニングを浸透させるよう工夫を始めるとともに、学校模試や自主教材を作成するなど、指導力の向上が継続的に行われている。今後は、課題研究のうち特に人文系の研究にどのように向き合うかが課題であろう。天王寺高校には、知的関心を醸す土壌があることから「学びの型」を作るような学習環境の創出に期待する。大阪が誇る文武両道をめざす公立高校として、すでにアウトプットの上限には達しているかもしれないが、今後は選択と集中により、さらに教育の質を高められることに期待する。												AAA

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	評価審議会の評価		
														コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①基礎学力の定着	継続	自学自習時間を増やす取組・進学講習の実施	学習状況調査の実施 進路HRの実施 3年進学講習参加者数	3回 各学年5回 延べ990名	3回 各学年5回 延べ977名	B	各学年の自学自習時間、1年・2年平日の平均自学自習1時間未満の割合、進路希望達成率	1年66分、2年98分、3年203分、年37%、2年10%、3年73.1%	1・2年90分、3年180分、1時間未満30%以下 達成率65%以上	1年73分、2年66分、3年221分、1年29.6%、2年34.9%	C	継続	B	
		②言語活用・ICT活用	継続	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション発表者数(校内・校外)、海外サイエンス7での研究発表	校内：715名、理系探究Ⅱは英語で発表校外：194名	校内：560名 校外：40名	校内：720名理系探究Ⅱは英語発表校外：144名	A	アンケートによる生徒の評価(2年の発表を見た1年の満足度)	96.7%	80%以上	98.6%	A		継続
		③英語運用能力	継続	イングリッシュキャンプの実施	1学年で実施	1年全員参加	1年全員参加	1年全員参加	B	アンケートによる生徒の評価(満足度)	79.3%	80%以上	76%	B		-
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力	充実	異文化理解教育の推進	海外スタディツアー・サイエンスの参加者数	スタディツアー-51名、サイエンス-22名、GLHS研修1名、他留学2名、学校訪問2校受入	70名	スタディツアー-50名、サイエンス-20名、GLHS研修1名、台湾研修8名、他留学2名、学校訪問2校受入	A	アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	スタディツアー-100% サイエンス-100%	90%以上	スタディツアー-100% サイエンス-95% 台湾スタディツアー-	-	継続	AA
		⑤共感性、協調性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	部代表者会議・リーダー研修会による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養、学校行事に進んで参加する生徒の割合	年間6回 リーダー研修行事参加率87%	年間6回とリーダー研修、行事参加率85%以上	年間6回とリーダー研修、行事参加率88%	B	学校教育自己診断による生徒の評価(達成感・満足度)	部活動等熱心81% 行事満足度87%	部活動HR活動熱心85%以上 行事満足度85%以上	部活動等熱心80% 行事満足度88%	B	継続	
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組み	教員の一致した指導	保護者との連絡徹底、学年生指による段階的指導の徹底		保護者との連絡徹底、生徒指導部による段階的指導の徹底	B	3年欠席者数 遅刻者数	3年欠席数 1795 遅刻総数 1947	欠席数前年度以下 遅刻数2300以下	3年欠席数 1178 遅刻総数 1129	A	充実	A
		⑦高い志を育む	継続	国公立大学キャンパスツアー、卒業生等による講演会、リーダー講習会、地域清掃等ボランティア活動	キャンパスツアー参加者数 講演会の回数 講習会の参加者数 地域清掃活動の回数	1年夢ナビ212名、阪大11名京大18名、講演会3回、リーダー講習会100名、地域清掃3回	参加者50名 講演会5回 参加者80名 地域清掃2回	12年夢ナビ311名、阪大34名、京大14名、大教大11名、講演会5回、リーダー講習会地域清掃2回、東日本大震災復興学習	B	アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	夢ナビ概ね好評、京大キャンパス加入、生徒発表満足度83.3%	80%以上	夢ナビ 京大キャンパス加入 参加満足度90.9%	B	継続	
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業力の向上	継続	校内における研究授業の実施 授業の相互参観	研究授業の回数 相互参観の教員参加率	社・数・理・英2回以上実施参観率69.8%平均2.3回	各教科1回以上 全教員	社・数・化学・英で実施 参観率72.6%平均2.3回	C	授業評価による授業理解度	1年71.2% 2年78.1% 3年86.6%	1年 70%以上 2年 80%以上 3年 85%以上	1年73.6% 2年73.9% 3年85.8%	B	継続	A
		⑨授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	校外延べ45名 国社数理英で参加 校内数英実施	前年度並み(45名)	校外延べ76名	A	授業評価による授業理解度	1年71.2% 2年78.1% 3年86.6%	1年 70%以上 2年 80%以上 3年 85%以上	1年73.6% 2年73.9% 3年85.8%	B	継続	
	共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査							学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績との比較から評価					A
大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	293名 81.3%	80%	86.4%	A	継続		
		大学入試センター試験の結果							大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点が全国平均(900点満点)の110%以上の割合	文系65.4% 理系62.3%	60%	文系64.8% 理系43.2%	C	継続		
VI. 課題研究活動		課題研究活動								アンケートによる生徒の評価(2年の発表を見た1年の満足度)	96.7%	80%以上	98.6%	A	継続	AA
		コンクール・コンテスト等の成果								科学系オリンピック・コンテスト等の参加者数	74名	H24年度並み(75名)	75名	B	継続	
VII. 英語運用能力		TOEFLiBT								TOEFLiBTスコア①80点以上の人数②60点~79点の人数	①0名 ②0名	①0名 ②参加者の5%	①0名 ②0名	C	充実	A
		TOEFLiBT以外の英語外部検定試験								2年生終了時点での英検2級の資格取得率	43.9%	50%	46.20%	C	継続	
VIII. 進学実績		スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学								スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)	45名	65名	36名	C	充実	B
		進学実績								進路希望達成率	73.1%	65%	68%	B	継続	
		国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	135人	-	121人	-	-	
	海外大学への進学								海外大学進学者数(1浪含む)	0人	-	1人	-	-		
総合評価		「生野高校生スタンダード」を示すなど、生徒を主体とした学びの転換が行われており、生野高校の取組は着実に進歩している。語学研修に参加するのみならず、ホームステイ受け入れも積極的に行い、ホスト以外の生徒も関わっての異文化理解教育が豊かに進められ、交流が表面的でなく、深化しており優れた取組である。教員の資質向上の点では授業力改善に努めているものの、一方で生徒の授業理解の高まりにつながっていないことが考えられ、そのことが課題といえるだろう。教員の指導力向上と多忙化解消に関し、効率化を図るなどの改善に取り組んでおり、今後の成果が楽しみである。これからも果敢に改革を進め、生野高校のさらなる飛躍に向けて躍進してもらいたい。											A			

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-4

事業 項目	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 言語活用能力 英語運用能力 	再編	①グローバルリーダー養成プログラム②英検実施③TOEFL道場	・参加人数	①新規282名③36名	①40名以上②80名③40名	①42名②98名③40名	A	アンケート・感想による生徒の肯定的評価	96%	80%以上	98%	A	継続	千亀利セミナーなどの自学自習の取組では、廊下や食堂などあらゆる場所を学習スペースとして活用し、早朝からの自習室の開放、土日を含むゆとりホールの開館など全学的に取り組んでいる。グローバルリーダー養成プログラムは英語力だけでなく、自らの将来像を描くすばらしい内容となっており、今後も継続されたい。	A	
			継続	・特進ゼミ（土曜講習）実施（千亀利セミナーの実施）	・特進ゼミ（土曜講習）実施日数（千亀利セミナー実施日数）	・33日	・25日以上	・34日	A	アンケート・感想による生徒の肯定的評価	41%	50%以上	54.8%	A	再編			
			新規	①勉強合宿（3年）の実施②朝読	①参加者数②1週間当たりの時間数	新規	①50名以上②50分	①41名②75分	A	アンケート・感想による生徒の肯定的評価	新規	70%以上	80.48%	A	再編			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	<ul style="list-style-type: none"> 違いを認め共に生きる力（共感力協調性） 違いを認め共に生きる力（共感力協調性） 健康・体力をはぐくむ 	再編	①オーストラリア語学研修の実施②アメリカ海外研修の実施	①オーストラリア語学研修参加者人数②アメリカ海外研修の参加人数	①30名②新規	①30名②15名	①32名②15名	A	アンケート・感想による生徒の肯定的評価	93%	80%以上	94%	A	継続	関西国際空港が近いメリットを「世界にいちばん近いGLHS」ととらえ、実際に、オーストラリア、アメリカへの研修、台湾修学旅行を実施し、異文化に対する共感力や協調性を育てている。部活動も盛んで、リーダー研修として部員に文武両道を、強くなることと学ぶことの意味を考える機会を設けるなど、生徒の育成に工夫を凝らした優れた取組である。	A	
			継続	①台湾修学旅行の実施②岸高祭の開催③人権HRの実施	①参加人数②岸高祭の観客動員数③人権HRの実施回数	①360名②4000名以上③3年間で4回	①360名②2500名以上③3年間で4回	①360名②3500名以上③4回	B	アンケート・感想による生徒の肯定的評価	93%	80%以上	90.40%	A	再編			
			継続	①クラブ活動の活性化②体育祭の実施③鍛錬遠足の実施	①クラブ加入率②体育祭参加率③鍛錬遠足参加率	①96%②98%以上③98%以上	①2③共に95%以上	①96.1%②98%以上③98%以上	A	①アンケート感想によるクラブ満足度②行事満足度	①91%②90%	①②共に80%以上	①88%②88.7%	A	再編			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現・高い志 規範意識 高い志 その他 	継続	①進路講演の実施②出前授業の実施③主要大学オープンキャンパスへの参加促進（1年生）	①実施回数②-1のへ授業授業参加人数②-2講座数③参加人数（360人）	①16回②-1・1080名②-2・24講座③1年生全員	①16回②-1・1080名②-2・20講座③1年生全員	①16回②-11360名②-220講座	A	①現役国公立大学合格者数②関東の大学への合格者数	①106名②28名	①120名②10名	①132名②28名	A	再編	地元志向・現役国公立大学合格へのこだわりといった現状のもと、生徒や保護者の意識を改革し、意欲を高めるため、東京方面の大学見学や大学教員による出張講義などを継続して行っている。グローバルリーダー養成プログラムをはじめ、高い志を育む取組を今後も充実・発展させてもらいたい。	A	
			継続	①朝の挨拶運動の実施②登校指導の実施	実施回数	①年130回以上②年60回以上	①年100回以上②年50回以上	①年130回以上②年60回以上	A	アンケートや感想による①生徒・②保護者の評価（肯定的意見）	①73%②87%	生徒・保護者共80%以上	①68.9%②84.4%	B	再編			
			新規	①グローバルリーダー養成プログラムの実施②グローバル人材による講演	参加人数	新規	①40名以上②320名以上	①42名②320名	A	アンケートや感想による満足度	新規	80%以上	98%	A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上 教材開発 初任者等の指導力向上 	継続	①公開授業週間の設定②生徒による授業評価実施③ICT機器の活用	①教科毎に1週間②年間2回③活用教員数	①教科毎に1週間②年2回③20名以上	①教科毎に1週間②年2回③15名	①教科毎に1週間②年2回③30名以上	A	授業満足度（授業アンケート）	75%	80%以上	79.10%	B	継続	ICT機器の活用や、アクティブラーニングの推進をめざし、プレゼンテーションでは、生徒間で質問やコメントをつけるなど、生徒同士の学びあいを通じた学習を進めている。経験の浅い教員の指導力向上が課題であるが、研修の実施など対策が立てられており、今後期待する。	A	
			再編	学習コンテンツの開発①2年生探究発表大会の実施②3年生キャリアスタートゼミ全体発表会の実施	①探究発表本数（①-1口頭発表本数、①-2ポスター発表本数）②キャリアスタートゼミ全体発表会の発表本数	①-1口頭発表9本①-2ポスター発表74本②新規	①-1口頭発表6本以上①-2ポスター発表30本以上②口頭発表5本以上	①-1口頭発表9本①-2ポスター発表89本②7本	A	①探究発表会の達成感②キャリアスタートゼミの達成感	①新規②66%	①②60%以上	①78%②56%	B	継続			
			新規	経験の浅い教員の指導力向上の取組	経験の浅い教員向け校内研修	新規			年間9回	A	アンケートや感想による教員の評価	新規	70%以上	71.40%	A			継続
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較					学力調査の結果については各学年ともに改善の余地があり、結果分析と今後の対策を考えられたい。大学入試センター試験については、それぞれの項目で目標を上回っており、評価できる。	A	
											大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	238名75.1%	270名(75%)	272名75.6%	A			継続
										大学入試センター試験の5教科7科目の得点率80%以上の受験者数（割合）	25名7.9%	29名(8%以上)	43名11.9%	A	継続			
	VI. 課題研究活動	課題研究活動									観点別評価の平均点	新規	平均50点以上/100点	70点	A	継続	全国規模のコンクール・コンテスト等への参加を学校全体で促し、参加数は増加している。課題研究の評価にも積極的に取り組んでおり、今後も指導の充実をめざしてもらいたい。	AAA
												全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者	69名	20名以上	493名(百人一首296名)	A		
	VII. 英語運用能力	TOEFLiBT									TOEFLiBTスコア①80点以上的人数②60点～79点的人数	50点以上1名	①1名②2名	①0名②1名	B	継続	TOEFLiBTへの取組はまだ発展の余地がある。TOEFLiBT以外の検定として英検を進めているが、受験者数や合格者数などの増加をめざされたい。	A
										英検：合格者	2級19名準2級29名	2級15名準2級25名	2級19名準2級45名	A	継続			
VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	23名	30名	37名	A	継続	進学実績では各項目において目標を上回り、着実に成果を上げている。海外大学への進学者はなかったものの、今後も高い志を育み、グローバル社会で活躍できる生徒の育成に努めてもらいたい。	A	
										国公立・主要私（早・慶・上智・東京理科・MARCH・関関同立・京大・同女・薬学・歯学・医学）現役	208名	180名(50%)	234名	A	継続			
											国公立大学現役進学者数	102名	120名	126名	A			再編
										海外大学進学者数（1浪含む）	0名	-	-	-	継続			
総合評価		岸和田城を臨む、恵まれた環境のもと、学校の歴史と伝統が培われ、豊かな教育活動が営まれている。前校長が完成させた人材育成プログラムを授業力向上の観点から、さらに継承・前進させており、そのことが進学実績の向上につながっていると考えられる。課題研究にも熱心に取り組んでおり、コンクール等への参加者数の増加のみならず、生物オリンピックの本選出場など、着実に成果をあげている。課題としては、地域の学校としてグローバルな良さを示しつつも、グローバルな生徒を育成していくといった点があげられるだろう。大阪の南の地域に根ざした高校として、これからの飛躍に大いに期待する。														A		

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用・ICT活用	充実	授業成果発表会の実施（豊高プレゼンテーション）①SSH課題研究成果発表会②SGH課題研究成果発表会	校内成果発表会の質を向上させる	口頭発表3本 ポスター発表35本	口頭発表4本 ポスター発表35本	代表口頭発表3本・SSHポスター発表26本・SGH口頭発表13本	A	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	95%	97%	98%	A	充実	「豊高プレゼンテーション」も回を重ねながら、年々充実してきている。生徒が授業の成果を発表することが、自らの学習活動への意欲向上につながっている。 また、学校全体の取組に位置づけ、教員と生徒が一つのことをなし遂げる場を創出している点は評価できる。 土曜講習の組織的な実施が、生徒の学習に関する意識向上につながっている。英語運用能力については、TOEFLのみならず、他の検定試験も活用して伸長を図っており、今後の進展に期待する。	A
		②基礎学力の向上	充実	1年校外学習会の実施	参加者数	363人	360人	361名	A	自学自習能力が高まったと回答した参加生徒の割合	87%	100%	94%	A	充実		
		③基礎学力の向上	充実	土曜講習の実施	講習実施回数 参加人数	15回 903人	15回 950人	15回 963人	A	講習で学力が伸長したと回答した参加生徒の割合	90%	93%	94%	A	充実		
		④英語運用能力	充実	TOEFLコースの実施	コース生の平均点	32.6点	40点	1回目 1年：33.2点 2年：49.9点	A	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	A	充実		
		⑤英語運用能力	充実	・リスニング講習・TOEFL講習・英語留学（フィリピン語学研修）	・講習参加者数 ・留学参加者数	・162人 ・11人	・200人 ・18人	・147名（リスニング講習） ・来年度に延期	B	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	B	再編		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	⑥違いを認め共に生きる力	充実	英国語学研修の実施	研修参加者数	35人	35名	30名	A	異文化理解を深められた参加生徒の割合	100%	100%	100%	A	充実	SGHの指定を受けたことによる課題研究の深化もあり、異なる文化への理解を深め、研究する素地が構築されつつある。 留学生や豊中在住外国人との交流には、多くの生徒が関わっている。また、語学研修、芸術展、スキースノーボード講習会など、多岐にわたって生徒の意欲を高める仕掛けが用意されている。 これらの事業に対する生徒の満足度はどれも高く、評価できる。	A
		⑦協調性・健康体力をはぐくむ	継続	スキースノーボード講習会（3泊4日）の実施	講習参加者数	132人	130名	121名	A	仲間と集団行動ができたことと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	A	継続		
		⑧豊かな感性および表現力	継続	造形二科展（書道・美術）	保護者等の参加人数	72人	100名	87名	A	生徒の満足度	95%	95%	94%	A	充実		
		⑨違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	充実	①異文化交流会の実施②大阪大学留学生との交流会の実施（1年文理学科）③豊中在住外国人との交流会の実施（1年普通科）	①参加者数/プレゼン作成本数②参加者数 ③参加者数	①350人9本 ②161人 ③200名	①360人9本 ②160人 ③201名	①360人9本 ②160人 ③201名	A	異文化について理解を深めることができたことと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	A	充実		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑩高い志をはぐくむ・規範意識	充実	地域交流活動、ボランティア活動の推進	活動人数	923人	1000人	1012人	A	ボランティア活動に参加した生徒の割合	100%	100%	100%	A	継続	ボランティア活動の参加者数は着実に増加しており、生徒が積極的に取り組んでいることが伺える。 特に理系において、全国の大学をめざす生徒が増えるなど、進路志向について変化が見られるとのことだが、この変化は各大学への見学や研究室訪問、各界で活躍する社会人による講演会などの成果であると考えられる。 今後もこれらの取組を継続し、さらに充実・発展されることを望む。	A
		⑪高い志をはぐくむ	充実	土曜セミナーの実施	SSセミナー、SGセミナー合計回数	16回	30回	36回	A	授業以外の体験ができたことと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	A	充実		
		⑫高い志をはぐくむ	充実	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	12回	15回	25回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	92%	95%	92%	A	充実		
		⑬高い志をはぐくむ	継続	自治会活動におけるリーダー育成	研修等実施回数	5回	6回	6回	A	部活動等でリーダーの自覚ができたことと回答した生徒割合	95%	95%	95%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑭高い志をはぐくむ	継続	自治会の生徒が自主的に企画・運営する校内大会	活動人数	82人	100人	121人	A	生徒の満足度	96%	96%	97%	A	継続	文系の課題研究についてはどの学校でも課題となっているが、「心のループリック」を作成し評価方法について工夫するなど、質の向上に努めている。 全教員による研究授業の他、教科ごとに指導力向上をめざす研修や実践結果の分析を行うなど、学校全体として授業力向上の取組が着実に進められている。 また、生徒による授業アンケートの結果も安定的に高い。	A
		⑮授業力向上	継続	保護者等への授業公開実施	保護者等の参加人数	511人	550人	521名	A	参加した保護者の肯定的な回答の割合	88%	90%	92%	A	継続		
		⑯授業力向上	充実	全教員による研究授業と研修	研究授業実施教員数	49名	55名	56名	A	生徒授業アンケート結果（肯定的な意見）	第2回85%	第2回90%	第2回92%	A	充実		
		⑰教科指導力向上	充実	教科別に指導力向上をめざす研修と実践結果の分析	研修・分析会実施回数（全教科）	23回	30回	30回	B	教科別生徒授業アンケート結果（肯定的な意見）	第2回80~90%	第2回92%	第2回92%	B	充実		
		⑱生徒指導力向上	継続	スキー、スノーボード講習会（3泊4日）における指導	OJT	8回	10回	11回	A	経験の浅い教員のアンケートで生徒指導力が向上した回答割合	100%	100%	100%	A	継続		
	V. 総合的な学力の測定	⑲課題研究力向上	新規	SSH・SGH課題研究における評価法の確立	・心のループリック評価・豊高型グローバルマインドセット評価のループリック	新規	平均3.1以上	平均3.1	A	課題研究のループリック評価で、課題研究の質が高まったと回答する生徒の割合	新規	80%	81%	A	充実	学力調査の結果では全国平均と比べて1年での学力の伸長に課題が見られる。 大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は上昇しており、さらなる増加に期待する。	A
10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較							
大学入試センター試験への参加										大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	73%	80%	73%	B	充実		
										5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	17%	25%	22%	A	充実		

知識基盤社会をリードする人材の育成

共通の取組	VI. 課題研究活動	課題研究活動							ループリックによる評価点	新規	平均7/10点	平均7点	A	充実	課題研究の評価にあたり、ループリックを作成していることや、コンクールの参加に前向きに取り組んでいることなど、評価できる。	A
		コンクール・コンテスト等の成果							全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	全国レベル1	全国2世界1	全国3世界1	A	充実		
	VII. 英語運用能力	TOEFLiBT							TOEFLiBTスコア ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①0名 ②0名	①1名以上 ②10名以上	①1名 ②3名	B	充実	TOEFLiBTのスコアについては昨年より向上しているが、さらなる充実を期待する。 他の検定等については、目標値と実績を明確に示されたい。	AA
		TOEFLiBT以外の英語外部検定試験							①GTEC CBTスコア（1年希望者受験）②IELTSスコア	①700点以上100人 ②3以上2人	①700点以上150人 ②3以上5人					
		TOEFLiBT以外の英語外部検定試験							GTEC For Studentスコア (1～2年)	新規	600点以上100名	610点以上29名	B	充実		
	VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学							スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	52名	60名	57名	A	充実	進路希望達成率をはじめ、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数についても伸長している。 国公立大学現役進学者数は、高い目標を設定したこともあり、目標値に達しなかったが、今後も生徒に高い志を育むよう、指導に取り組んでもらいたい。	A
		進学実績							進路希望達成率（年度当初の希望の達成率）	49%	53%	51%	A	充実		
		国公立大学への進学							国公立大学現役進学者数	114名	145人	113人	A	充実		
		海外大学への進学							海外大学進学者数（1浪含）	0人	2人	0名	B	充実		
	総合評価		<p>生徒の動向や状況をよく分析したうえで、学力を伸長させる仕掛けとして、入学直後の学習オリエンテーションなどを活用した学習指導を行っている。また、生徒に授業成果について発表する活動を進めるとともに、多くの先生と生徒が関わって一つのことをなし遂げる「豊高プレゼンテーション」は評価に値する。さらに課題研究についても、「心のループリック」を作成し、その質の向上に努めている。豊中高校の変容がGLHS事業の評価の胆であると自ら意識して、さまざまな取組に果敢に挑戦を続けた結果、着実に成果が上がっている。豊中高校の今後のさらなる充実と飛躍を大いに期待する。</p>													A

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の更直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	・自学自習力 ・言語活用力	継続	(1年)学習合宿と英語コミュニケーション集中講座の実施	自学の取組についての生徒の評価(学習合宿)	91%	90%以上	未実施	—	英語コミュニケーション集中講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	96%	90%	事後アンケート実施出来ず	—	再編	学年が進むごとに学力差が広がっていることに対し、生徒がSNSに費やす時間の増加、学習時間の減少などを要因ととらえ、対策を取ろうとしている。今後の学習合宿の再編や、取組の再構築を期待する。情報プレゼンテーション大会は準備から発表に至るまで、生徒の主体的な実施運営ができています。自習室の整備を進めるとともに、学校図書館も生徒が有効に活用できるよう工夫されており、学びの環境の充実が、生徒の学習意欲の向上につながることを期待する。	A	
		・ICT活用力 ・コミュニケーション力	継続	情報プレゼンテーション大会の実施(1年)	参加人数	361人	360人	360人	A	情報プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	90%	85%以上	90%	A	継続			
		・科学的リテラシー	充実	エネルギー探究(1・2年文理学科と希望者)【国内外のエネルギー政策の研究】	参加人数	1年文理学科と希望者	1年文理学科と希望者	370人	A	エネルギー関連施設見学に対する生徒の評価(肯定的意見)	95%	90%以上	95%	A	継続			
		・読解力リテラシー	継続	読書活動の活性化	コーナー展示の年間回数	81回	70回以上	82回	A	年間貸出し数	12,000冊	12,000冊以上	1000冊	B	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・違いを認め共に生きる力 ・共感性・協調性	継続	海外修学旅行の実施(2年)【学校交流、ホームステイ受入れ】	修学旅行全般についての生徒の評価(肯定的意見)	97%	90%以上	92%	A	学校交流についての生徒の評価(肯定的意見)	75%	70%	68%	B	継続	オーストラリア・ベトナム・ドイツなどの海外研修の実施のみならず、修学旅行において生徒全員が台湾の高校と交流するほか、長期留学者が複数名存在するなど、着実に異文化交流が進められていることが伺える。生徒の部活動への参加も活発であり、今後はこれらの取組が、生徒の学びのモチベーションの向上にどう結びついているのか、検証されたい。	A	
		・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	充実	海外研修(オーストラリア・ベトナム・ドイツ)の実施(1・2年希望者)	希望者数と参加人数	65人から26人を選考	100人以上から45人を選考	79人から41人を選考	B	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	100%	90%以上	98%	A	継続			
		・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	充実	異文化交流活動	国際交流キャンプ等各種国際交流活動の参加人数	37人	30人以上	22人	A	国際交流キャンプ参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	94%	90%以上	100%	A	継続			
		・協調性 ・健康・体力 ・リーダー育成	充実	部活動の活性化	部活動の参加率	90%	90%以上	94%	A	近畿・全国レベル大会への出場	6件	5件以上	5件	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・進路実現 高い志	新規	飯盛セミナーの実施	講座数と参加人数	—	5講座380人	8講座のべ737名	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	—	80%以上	平均80%	A	継続	飯盛セミナーとして、卒業生や各界で活躍している社会人からの講演を聞く機会は、地元志向が強い生徒へのよい刺激となっている。母校への思いが強い卒業生が多くいる学校ならではの取組の、今後の充実・発展を期待する。	A	
		・規範意識	継続	自己規律意識の涵養	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	B	年間遅刻者数	1045人	1000人未満	721人	A	再編			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	・進路指導力向上	継続	スキルアップ研修実施	実施回数と参加人数	年4回207名	年3回150名以上	年3回	B	アンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	87%	80%以上	82%	B	再編	アクティブラーニングの研修や初任者研修の実施など、学校全体として組織的に授業力向上に取り組んでいる。教員の多忙感、教材の共有化やICTの活用が進んでいない点などの課題に対して、校務検討委員会を設置し、業務を絞り込もうとしている。今後の改善に向けたマネジメントに期待する。	A	
		・初任者の指導力向上	継続	初任者の指導力向上をめざす取り組み	初任者ミーティング実施回数	10回	10回以上	10回	A	アンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	A	継続			
・教科指導力向上		継続	教員間の授業公開	実施回数	1回目は全員2回目は各教科1名以上	1回目は全員2回目は各教科21名	2回	B	学校教育自己診断による肯定的評価	95%	90%以上	91%	B	継続				
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較					学力調査の結果では1年から2年への伸長は一定維持しているが、今後さらに伸長させるよう工夫されたい。大学入試センター試験の5教科7科目受験者の割合、得点率80%以上の割合ともに、目標に達していないため、その要因の分析と対策が望まれる。	A	
		大学入試センター試験への参加								大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	86%	85%以上	83%	B	継続			
		大学入試センター試験の結果								大学入試センター試験5教科7科目受験者の得点率80%以上	16%	15%以上	15%	B	継続			
	VI. 課題研究活動	課題研究活動									外部でのポスター、プレゼン発表数	12グループ	10グループ以上	15グループ	A	継続	数学オリンピックでは世界大会には選出されなかったものの、全国15位と健闘している。今後は課題研究の組織的な実施に向け、体制の構築について検討されたい。	AA
		コンクール・コンテスト等の成果									外部のコンクール・コンテスト入賞者	入賞10名	入賞10名	入賞10名	B	継続		
	VII. 英語運用能力	TOEFLiBT									TOEFLiBTスコア ①80点以上の人数 ②60点~79点の人数	①0名 ②1名	①1名 ②10名	①0名 ②1名	B	継続	TOEFLiBTについては今後スコアをどのように伸長させるかが課題である。SETの導入で指導体制も整いつつあり、今後に期待する。	A
		スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学									スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含)	45名	50名以上	58名	A	継続		
	VIII. 進学実績	進学実績									難関3国公立大学(京大・阪大・神大)現役・浪人合格者数	74名	80名以上	82名	A	継続	スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数については目標値を大きく上回った。一方で、国公立大学現役進学者数が目標を下回っており、要因等の分析が望まれる。	AA
		国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	108名	120名以上	107名	A	継続		
		海外大学への進学									海外大学進学者数(1浪含む)	2名	1名	0名	B	継続		
総合評価		部活動の参加率の高さ、ボランティア活動を取り入れた海外研修を含む各種の国際交流事業など、全人的な人材育成のプログラムが進められている。学年が進むごとに学力差が広がるという課題に対し、自習室の充実など、教員の生徒に寄り添った指導が展開されている。地元志向に流れやすい生徒に、どのように広い視野を持たせるかの仕掛けが今後必要であろう。地理的に都市部からやや距離があることをメリットととらえ、地域との連携に力を注ぐなど、豊かな文化と歴史に培われた四條畷高校の今後の躍進に期待する。														A		

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見える化が必要である
---------	--------------------------------------	----------------	--

資料2-7

事業 種別	大項目	小項目	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価	
															コメント	評価
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	1. 基礎学力及び自学自習力の向上	①隔週土曜授業②三丘エクセレンス、三丘スタディーハード③成績不振者講習の実施(1・2年生)	・実施回数	・新規・9回、139回・年間に81回(4教科)	・15回・10回、150回以上・学期に10回以上	・17回・84回、220回・86回	A	・アンケートや感想・1,2年生の自学自習を2時間以上生徒の割合・補充講習への出席率	・新規・1年38%2年39%・100%	・肯定的意見70%以上 ・50%以上 ・100%	・54% ・1年38%、2年48%・100%	B	継続	これまでの理系課題研究の実績をもとに、文系についてもSGH指定を受け、研究内容とともに、プレゼンテーションの向上に努めている。さらに、学校外でのコンテストで受賞するなど実績も上がっている。 隔週で土曜授業を実施するなど、基礎学力の充実にも取組が進んでいる。今後は一層、教員の組織的な指導体制の充実を図りたい。	AA
		2. 読解力リテラシー育成	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録シートによる指導(1,2年全員)	・図書日より年間3回発行・記録シート指導 ・要約提出	・年間3回 内容充実 ・学期提出	・図書日より3回発行・記録シートを提出・要約提出	B	・読書シート提出による自主読書量・2年次は課題図書読書ノート	・1年次で平均18冊・2年次は5冊を課題	・1,2年で学期に5冊以上・2年次課題図書年間5冊以上	・1次平均14冊・2年次7冊	A	継続		
		3. 科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育む	⑥「課題研究(CS研究)」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室訪問回数・CS研究I・II・情報関連科目プレゼン実施・校外の発表会等でのプレゼン	・21回・毎週実施 ・1年1回、2年CS探求2回・9回	・10回・毎週継続実施 ・全員2回・年間5回	・15回・毎週実施 ・1年1回、2年CSⅡ3回、SSH・SGH各5回・4回	A	・「課題研究(CS探究)」の発表回数 ・実施後のアンケートや感想	・9回 ・肯定的感想が大半	・口頭及びポスター発表8回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・13回 ・80%	A	充実		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	4. 英語運用能力の育成	⑧TOEFL授業の実施 ⑨使える英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・新規 ・TOEFL講座の形で・校内開催10回、校外研修1回	・毎週実施 ・文系・理系のべ15回	・授業として1年4クラス週2回実施・現在理系3回、文系10回	A	・アンケートや感想 ・各種TOEFLテスト受験者数 ・特別レッスン参加者数	・新規・TOEFL ITP 156名受験・TOEFL Jr 17名受験・TOEFLチャレンジ42名受験	・肯定的意見80%以上 ・TOEFL ITP受験者数300人・TOEFLIBT(チャレンジ)160人・延べ80人	・80% ・TOEFL ITP399人・TOEFLチャレンジ159人・65人	A	充実	TOEFLIBTに関する取組をはじめ、英語運用能力について組織的に実践している。 フィールドワークを含む各種の海外研修を実施しており、留学生との交流も盛んに行われている。 また、地域の小・中学校と連携し、防災宿泊訓練を実施するなど、社会貢献意識の涵養を図る取組も充実しており、評価に値する。	AA
		5. 違いを認め共に生きる力の育成	⑩海外スタディ・ツアー等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・スタディツアー参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・76人 ・70人	・90人 ・70人	・113人 ・71人来校交流	A	・スタディツアー応募者数・アンケートや感想による生徒の評価	・応募者58名 ・肯定的評価が大半	・応募者100名 ・肯定的評価100%	・128名 ・肯定的評価100%	A	継続		
		6. 違いを認め共に生きる力の育成	⑫地域ボランティア活動への参加	・幼稚園小学校等の世代間交流(防災宿泊訓練含む)の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室	・45人参加 ・48人の中学生を指導	・40人 ・30人	・51人参加・110人の中学生を理科系3クラブで実験等指導	A	・アンケートや感想による評価(防災宿泊訓練・幼稚園ボランティア) / (三国丘科学教室)	・肯定的感想が大半・肯定的評価100%・48人	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見80%以上・参加者の増加	・肯定的感想大半・肯定的評価100%・110人	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	7. 健康・体力・協調性と豊かな感性の育成	⑬部活動の振興 ⑭学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事(文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会)実施	・95% ・無事故で実施	・95% ・内容充実	・95% ・内容を充実させ無事故で実施	B	・大阪府代表や近畿大会への参加・出場件数・アンケートや感想による生徒評価	・世界大会1、全国大会1、国体1、近畿大会3、東京大会2・肯定的感想が大半	・5件 ・肯定的評価90%	・全国大会2件、近畿大会8件、科学全国大会3件、SGH全国大会1件、定的回答95%	A	継続	卒業生である大学生を招き、大学生生活や入試体験を語ってもらう「進路交流会」は、身近な先輩の成功事例に触れることができ、学習の動機づけ、受験生活の悩みの解決のヒントとなっている。 また、各界で活躍する卒業生による「キャリアガイダンス」など、生徒の意識を高める取組が充実している。 進路結果には課題もあるが、高い志を育む取組は優れており、今後も継続・発展されたい。	A
		8. 高い志を育み進路実現を果たす	⑮卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会⑯東京方面キャンパスツアー⑰大学見学⑱医療インターンシップ	・講座(講演)の開催回数 ・参加人数	・23回 ・20人 ・431人 ・54人	・25回 ・20人 ・100人 ・50人	・27回 ・20人 ・436人 ・35人	A	・難関国立(10大学)進学者数(東、京、阪、北、東北、名、九、神、市、府)・国立大学医学部医学科進学者数・アンケートや感想による生徒の評価	・184人(現役106人) ・12人	・185人以上(現役110人以上) ・10人以上	・147人(現役94人) ・11人	C	継続		
		9. 規範意識の醸成	⑲遅刻指導の徹底 ⑳朝のあいさつの奨励 ㉑リーダーズ研修の実施	・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・日常実施 ・11回実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間12回の実施	・日常実施 ・8回実施	B	・1日1クラスあたりの遅刻人数	0.59人	・0.5人未満	0.51人	B	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	10. 授業力向上	㉒授業改善の取組㉓授業観察によるフィードバック㉔保護者へ授業公開㉕公開研究授業及び研究協議㉖アクティブラーニングやICT機器活用授業の研究㉗他校の研究授業への積極的参加㉘民間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加	・全教員が改善シート提出・全員にフィードバック・年間3回実施 ・年間4回実施・研修及び授業見学実施回数・参加人数	・全教員提出・全員にフィードバック・年間3回・年間4回・年間1回・他校に28名予備校等に53名・57名	・全教員提出・全員にフィードバック・3回実施・4回実施・授業見学週間の実施・他校や予備校等に28名参加・80名	A	・授業アンケートによる授業満足度	・2回の授業評価 全教員平均 88%	・80%以上	・87%	A	充実	授業力向上の取組として、ICTの活用、授業アンケートにおけるすべての教員の改善シートの提出など、取組が断片的でなく、組織的に進んでいる点を特に評価する。 これまでから三国丘の強みである教員の教科指導力の共有化や課題研究の評価方法の研究も継続して進めている。生徒の授業満足度も高く、今後のさらなる向上を期待する。	AA	
		11. 進路指導力向上	㉙新旧3年担任を中心とした進学指導研修㉚各学年業者模試実施後の研修㉛センター試験分析研修	・各実施回数	・1回実施・4回実施 ・1回実施	・年間1回・年間3回・年間1回	・1回実施 ・4回実施 ・1回実施	B	・難関国立(10大学)への進学者数(東、京、阪、北、東北、名、九、神、市、府)・国立大学医学部医学科進学者数	・184人 ・12人	・185人以上(現役110人以上) ・10人以上	・147人(現役94人) ・11人	C			再編
		12. 初任者・転入者に対する指導力向上支援	㉜校内研修の実施	・研修実施回数	・11回	・10回	・12回	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	・9人の平均1回目から2回目に0.9%向上	・授業アンケート肯定的回答率2%以上の向上	平均で4.8%向上	A			継続
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査						学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績との比較から評価				学力調査の結果は特に1年から2年での伸長率に課題が見られ、対応された。 大学入試センター試験については目標値が高く、目標を達成できなかったが、今後も高い志を育む指導を続けられるよう望む。	A		
		大学入試センター試験への参加						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	91.8%	90%	83%	B			継続	
	大学入試センター試験の結果						5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	29.5%	30%	29%	B	継続				
VI. 課題研究活動	課題研究活動							校外での研究発表グループ数	17グループ	20グループ	29グループ	A	継続	全国大会における発表の実績など活躍はめざましい。課題研究に関してルーブリックを作成するなど成果が上がっていると言える。	AA	
	コンクール・コンテスト等の成果							府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	14名	15名	36名	A	継続			
VII. 英語運用能力	TOEFLIBT							TOEFLIBTスコア①80点以上の人数②60点~79点の人数	①0名 ②2名	①1名以上 ②4名以上	①0 ②6	A	継続	TOEFLへの取組を学校全体で実施していることは評価できる。今後のさらなる成果に期待する。	AA	
	TOEFLIBT以外の英語外部検定試験							TOEFL ITPのスコアレベル1 450点以上の人数	75名	80名	13名	C	再編			
VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学							スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)	96名	100名	94名	B	継続	各項目ともに高い目標を掲げており、目標には達しないまでも、一定の高い水準で維持できている点は評価できる。 これからも継続して、高い志を育む、進路指導に取り組んでもらいたい。	AA	
	進学実績							難関国立大学等(東、京、阪、神、市、医学部医学科)の全合格者数(現役・浪人)	149名	150名	122名	C	継続			
	国公立大学への進学							国公立大学現役進学者数	147人	150人	141名	B	継続			
		海外大学への進学						海外大学進学者数(1浪含む)	0人	1人	1名	B	継続			

総合評価

GLHSの指定により、伝統に培われた三国丘高校がめざましい変革を遂げ、さらに加速度的に改革が進んでいる印象を受ける。「三丘会」における経験の少ない教員を対象とした研修や、講習ではなく授業重視の観点から実施されている土曜授業など、様々な取組を他に先駆けて行っている。
生徒による授業アンケートの結果を踏まえ、全教員が改善シートを提出し授業力向上に努めるなど、断片的でないシステム化された実践が行われている。そのような、三国丘の強みである教員の教科指導力を共有しようとする取組は評価できる。今後も改革を進め、三国丘高校がさらに躍進することを期待する。

AA

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	6回 / 講座	6回 / 講座	11回 / 講座	B	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	84%	75%	81%	A	継続	<p>確かな学力の向上については、ディベートやプレゼンテーションといった、生徒の主体的な学びが取組指標に掲げられており、アクティブ・ラーニングの「アクト」の部分が着実に実践されていることは評価できる。今後はそれぞれの評価方法についての工夫を明確に示されたい。</p> <p>学習支援については、卒業生の協力を得るなど、母校愛の強い茨木高校ならではの取組となっている。今後一層の取組の充実を期待する。</p>	A		
				教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A: 「保健」の授業でのプレゼンテーション B: 「委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A: 1回 / 生徒 B: 10回	A: 1回 / 生徒 B: 10回	A: 1回以上 / 生徒 B: 23回	A	【アンケートによる生徒の評価】 A: 授業を通じて自らの成長を実感できた B: 委員会に参加して充実した活動ができた	A: 91% B: 69%	90%	A: 90% B: 81%	B	継続				
				A: 卒業生による学習支援 B: 自習室の開設による自学自習の支援	実施回数	A: 20回 B: 107日	A: 20回 B: 90日	A: 20回 B: 107日	B	利用人数	A: 35人 / 回 B: 35人 / 日	A: 25人 / 回 B: 25人 / 日	A: 14人 / 回 B: 17人 / 日	C	再編				
		II. 豊かな感性を、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様性受容の取り組み	実施回数	年6回 / 学年	年4回 / 学年	10回 / 3年7回 / 2年5回 / 1年	A	【アンケートによる生徒の評価】 様々な取り組みを通じて、深く自国や自分自身を見つめ直すことができた	91%	90%	3年97% 2年99% 1年92%	A	継続			<p>「二兎を追う」姿勢が貫かれており、勉強だけでなく、様々な行事を自主運営する茨木高校の伝統が継承されていることは素晴らしい。</p> <p>野外宿泊行事を軸として、人権研修、国際交流が行われるなど、グローバルリーダーの資質である社会貢献意識を育む機会が設けられており、高い評価に値する。</p>	AA
				生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	20回	20回	25回	B	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事は充実した内容で実施され、工夫されている	91%	90%	90%	B	継続				
				リーダー研修Ⅲ（スクールリーダー事業）の実施	実施回数	12回	10回	12回	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後のクラブ活動において有効活用できる	90%	90%	91%	B	継続				
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	継続	継続	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ（リーダーの資質と規範意識の獲得）の実施	実施回数	I: 12回 II: 9回	I: 10回 II: 6回	I: 13回 II: 13回	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後の学校生活において有効活用できる	I: 93% II: 88%	90%	I: 97% II: 75%	B	継続	<p>「卒業生講座・学問発見講座」では昨年の講座に加え、グローバル社会の第一線で活躍する卒業生を複数招き、創立120周年記念の「茨高教育シンポジウム」を実施。</p> <p>生徒にとっては、具体的かつ理想的な将来像が示されたことで、志が高まり、また明確になったことであろう。</p> <p>これまでから実施されているリーダー研修も含め、生徒の満足度も高いため、今後も継続しながら充実・発展されたい。</p>	AA		
				ボランティア活動の推進	地域等の活動への参加回数	10回	10回	13回	B	生徒のへの参加人数	約800名	780名	790名	B	継続				
				卒業生講座・学問発見講座	実施講座数・実施回数	14.5講座 / 年2回 (29講座)	14講座 / 年2回 (28講座)	14講座 / 年1回 (14講座)	B	【アンケートによる生徒の評価】 「卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった	96%	90%	92%	B	継続				
	IV. 教員の指導力向上をめざす	継続	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取り組み	実施教科数	3教科	2教科	2教科	B	《授業アンケートによる生徒の評価》 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった	87%	85%	86%	B	継続	<p>教員の年齢構成の変化による世代交代にあたり、どの学校でも工夫を凝らしている中、茨木高校では早くから、教科を越えて他の教員の授業観察を積極的に行うなど、継続的に授業力の向上が図られている。</p> <p>特に、パディシステムを用いた互見授業は永年継続して行われ、大きな成果を上げており評価できる。</p>	A		
				パディシステムを用いた互見授業の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	2.5回 / 人	2.0回 / 人	2.7回 / 人	B	《授業アンケートによる生徒の評価》 信頼できる先生なので来年もこの先生の授業を受けたい（後輩に受けさせたい）	91%	85%	89%	B	継続				
				研究授業の実施	実施回数	9回	9回	9回	B	研究授業の教員のへ参加人数	82名	60名	90名	B	継続				
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	継続	10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較										<p>学力調査の結果においては、茨木高校に限らず、1年から2年での下降傾向が見られる。その原因について、校内で検証され、改善を図られることを望む。</p> <p>大学入試センター試験については、5教科7科目受験者の割合、得点率ともに、高い割合を維持している点は評価できる。</p>	A			
			大学入試センター試験への参加	大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合	86.6%	85%	84.5%	B	<p>さまざまなコンテストに学校をあげて参加する体制が構築されている。また、入賞者数も目標を大きく上回っており、高く評価する。</p>	AAA									
			大学入試センター試験の結果	大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率	74.1%	74%	74.6%	B											
	VI. 課題研究活動	継続	課題研究活動	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国 essay contest等の入賞者数	のべ9名	2名	12名	A	継続	<p>TOEFL iBTに関して、指導体制・取組ともに充実しており、その結果、平均点・上位者の成績ともに成果が上がっていることは高く評価できる。今後も継続して指導にあたられたい。</p>	AAA								
コンクール・コンテスト等の成果			別紙																
VII. 英語運用能力	継続	継続	TOEFL iBT	TOEFL iBT ヲア リトブ ヲア ティ ス ト ア ヲ ①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①4名 ②8名	①4名 ②20名	①4名 ②47名	A	継続	<p>TOEFL iBTに関して、指導体制・取組ともに充実しており、その結果、平均点・上位者の成績ともに成果が上がっていることは高く評価できる。今後も継続して指導にあたられたい。</p>	AAA								
			TOEFL iBT以外の英語外部検定試験	設定しない															
VIII. 進学実績	継続	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	103名	80名	102名	A	継続	<p>卒業生徒数が1クラス減少しているにもかかわらず、進学実績ではよく健闘している。高い志を育み、自己の志望を貫徹する生徒の育成について今後も期待する。</p>	A								
			進学実績	東大、京大、阪大、神大の合格者数	152名	120名	126名	B	継続										
			国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	140名	-	117名	-											
			海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	-	0名	-											

総合評価

「二兎を追う」という伝統的な姿勢が貫かれ、生徒に自ら考えさせて育てるといふ公教育の良さを体現し、豊かな学びの環境が構築されている。グローバル社会の第一線で活躍する卒業生による、創立120周年記念の「茨高教育シンポジウム」では、生徒にとって理想的な将来像が示されたことで、志が高まったことであろう。

また英語運用能力の成果も上がっており、また、これまでから課題研究活動も活発であることを含め、多面的にグローバルリーダーを育成する体制が整っている。躍進を続ける茨木高校のさらなる展開に期待する。

AA

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標				自己評価		評価審議会の評価		コメント	評価
										前年度実績	目標値	実績	自己評価	前年度実績	目標値	実績	自己評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用・ICT活用	充実	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	665人	600人	685人	A	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①98% ②- (新規)	①100% ②前年度より良かったと評価した指導助言者の割合80%	①98% ②82%	A	継続	課題研究の質の向上をめざし、評価指標を作るなど、指導の充実を図っている。特に、数学を中心とした理系の課題研究についてはSSHの実績を踏まえ、着実な成果を上げている。文系の課題研究についても、他校に声をかけ、大学教員を招いた研修会を実施するなど、質の向上に取り組んでいる点は評価できる。 また、基礎学力の成果指標をセンター試験の得点率とするなど、リーディングスクールの名に恥じない学校の気概が感じられる。	A		
		②基礎学力の向上	充実	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1208人	1200人	1275人	A	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	29.5%	30%	22.4%	C	充実				
		③英語運用能力	充実	①イングリッシュキャンプ・TOEFL講座の実施 ②ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	①40人 ②720名	①40人 ②720名	①40人 ②720名	A	①英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合 ②センター試験英語平均点	①95% ②全国平均に 対して 132%	①96% ②132%	①99% ②132%	A	継続				
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	159人	160人	受入38人 派遣161人	A	異文化について理解を深めることができた と回答した参加生徒の割合	99%	100%	99%	A	継続	スタンフォード・英国・マレーシア・シンガポール・台湾などの海外研修についての役割を整理し、目的を明確化したことにより、それらの取組がさらに充実してきている。 定時制課程があることをメリットとし、部活動において時間を効率よく使うように指導したり、定時制の文化祭に全日制の生徒が観客として参加し、交流している点などは評価に値する。 また、生徒全員が参加する茶道体験をはじめ、学校行事を大切にすよき伝統が引き継がれている。生徒の満足度も高く、今後も継続・発展させてもらいたい。	AA		
		⑤共感性・協調性	継続	①野外生活体験学習の実施 ②コーラス大会の実施	参加者数	①364人 ②全校生徒	①360人 ②全校生徒	①360人 ②1085人	A	この学校で良かったと回答した生徒の割合	96%	96%	98%	A	継続				
		⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部発表会の実施 ②自治会発行冊子の発行	①年間2回 ②年間1部	①年間2回 ②年間1部	①年間2回 ②年間1部	A	クラブ加入率	90%	90%	90%	A	継続				
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦社会貢献意識を高める	充実	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	251人	280人	298人	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	79.0%	80%	73.4%	C	充実	大阪城周辺の清掃をはじめ、訪れる観光客を英語でサポートするボランティアガイドなど、学びにつながる活動が行われている。また、生徒自らが新たなボランティア活動を提案するなど積極的に展開している。 リーダー育成の講演会については、卒業生の協力を得るほか、教員がさまざまな講師を開拓するなどにより、数多くの回数を実施している。 また、海外研修での学びや、部活動でのリーダーとしての体験などを通して、高い志を有する生徒の育成に努めていることは評価できる。	AA		
		⑧規範意識	充実	自己規律意識の涵養	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	A	1年あたりの総遅刻者数	2613人	2600人	2548人	A	充実				
		⑨高い志をはぐくむ	継続	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	88回	70回	92回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	97%	97%	97%	A	継続				
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	・研修回数 ・研修参加者数	30回	30回	33回	A	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	90%	90%	91%	A	継続	校内外の研修や授業見学、研究授業を実施し、教員の指導力の向上に継続的かつ組織的に取り組んでいる。また、民間教育産業を活用した研修や教科として外部模試の分析を行うほか、授業の公開性や透明性が高いことなども評価できる。 また、教材研究については、学習の評価を重視し、ルーブリックなどを作成していることとで、その充実を期待する。	AA		
		⑪授業指導力向上	充実	研究授業、授業参観等の実施	・研究授業の回数 ・公開授業の回数	40回 54回	・45回 ・81回	・64回 ・108回	A	生徒アンケート「次年度も授業を受けたい、または後輩に進めたい」と回答した生徒の割合	- (新規)	80%	82%	A	継続				
		⑫教材開発	充実	①オリジナル教材の開発 ②シラバスの充実	①教材開発 ②改定冊数	①5科目 ②3学年分	①5科目 ②3学年分	①7科目 ②3学年分	A	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	78%	80%	82%	A	継続				
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績を比較				学力調査の結果では、1年から2年のみならず、2年から3年での伸びも弱いため、生徒の学力の伸長に対する対策が求められる。 センター試験の受験者の割合は上昇したものの、8割以上得点した者の割合が大きく減少した点については、分析や対策が求められる。	A			
		大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	86.2%	88%	88%			A	継続	
	VI. 課題研究活動	大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	29.5%	30.0%	22.4%	C	充実	読解力・科学的リテラシーについては、全国規模の大会における入賞者数を増やすなど、着実に成果を上げており、今後も引き続き生徒の指導にあたられたい。	AAA	
		課題研究活動									全国規模の大会での発表者数	6人	10人	10人	A	継続			
	VII. 英語運用能力	コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①府レベル5人 ②全国レベル2人	①府レベル5人 ②全国レベル2人	①府レベル6名 ②全国レベル7名	A	充実	TOEFLiBTチャレンジだけでなく、TOEFLiBTを受験し高いスコアを獲得する生徒がいるなど、英語運用能力の育成に向けた取組は進んでいる。学校全体でのさらなる組織的な取組に期待する。	AA	
		TOEFLiBT									TOEFLiBTスコア①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①1人 ②2人	①2人 ②8人	①2人 ②3人	B	充実			
	VIII. 進学実績	TOEFLiBT以外の英語外部検定試験									①GTEC CBTスコア (希望者受験) ②IELTSスコア	①700点以上100人 ②3以上2人	①700点以上100人 ②3以上5人	①700点以上102人 ②3以上1人	B	充実			
		スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学									スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)13校への進学者数(1浪含む)	102名	100人	98人	B	充実	国公立大学への現役進学者数が大幅に上昇していることから、成果が上がっていることが伺える。 また、進路希望達成率という、年度当初の希望達成率を調査し、進路実現に向けた指導体制の充実を図っていることは、評価に値する。	AAA	
		進学実績									進路希望達成率(年度当初の希望の達成率)	36.6%	37%	38.1%	A	充実			
		国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	121人	125人	148人	A	継続			
	海外大学への進学									海外大学進学者数(1浪含む)	0人	2人	2名	A	継続				
	総合評価		大阪の中心地、大阪城に臨む緑豊かなフィールドで、伝統を大切にしつつも、「進取」の教育活動を展開している。定時制課程があることをメリットととらえ、時間の効果的な使い方を組織的に実践するなど、グローバル社会で活躍するにあたっての重要な素養を育てているといえる。基礎学力の成果指標をセンター試験の得点率とするなど、指標の立て方そのものに、リーディングスクールの名に恥じない学校の気概が感じられる。今後、完成度の高いカリキュラムや教育活動を、さらによりよく組織的に改善・運営するには校長のマネジメント力が問われよう。今後もグローバル人材の育成に努めてもらいたい。															AA	

平成27年度グローバルリーダーズハイスクール評価シート 府立高津高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る <small>「小項目（はぐくみたい力）」 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力</small>	①学習方法の定着 読解力リテラシー	充実	1年生学習合宿	参加生徒数	1年生全員	1年生全員	1年生全員参加	A	高校での学習方法が学べたと回答した生徒の割合	93.6%	95%	96%	A	継続	AA	学校内に自習室を設けて勉強する場所づくりを進めた結果、自学自習の時間が増加した。1年の土曜講習を全員参加とし、英語についても全員がICレコーダにより、日常的に教材を聞ける体制をとるなど、常に取組を改善・進化させている。 生徒に学習の機会を与え、後押しすることで、学力を伸ばさせている点を高く評価する。	
		②言語・ICT活用能力	充実	校内課題研究発表会	参加生徒数	1,250人	1,300人	約1,320人	A	取組を通してプレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	91%	95%	89%	A	継続			
		③英語運用能力	再編	①英語コミュニケーション講座 ②英語上級者合宿 ③英国語学研修	参加生徒数	①1・2年生 全員参加 ②17人 ③20人	①1・2年生全員 参加 ②20人 ③20人	①1・2年生全員 参加 ②16人 ③24人	A	それぞれの取組を通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①94.6% ②100% ③100%	①95% ②100% ③100%	①98.7% ②100% ③100%	A	一部再編			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ <small>「小項目（はぐくみたい力）」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力</small>	④健康・体力、協調性	充実	記念祭（文化祭・体育祭の一体実施）	参加団体数	全クラス、有志15団体	全クラス、有志15団体	全クラス・文化系クラブ+有志23団体参加	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合	生徒90% 保護者93%	生徒・保護者95%	生徒98% 保護者91%	A	一部再編	AA	文化祭・体育祭を同時に9月初旬に実施することで、学習時間を確保しつつ、行事内容の充実を図るなど、うまくマネジメントしている。 高齢者との交流を深める音楽のイベントや、盲学校とフラインドベースボールを通じた交流、支援学校と定期的な交流、高津キャンパスのボランティア活動など、「違いを認め共に生きる力」が継続して着実に育まれていることを高く評価する。	
		⑤違いを認め共に生きる力、共感性、協調性	再編	①高津キャラバン隊（ボランティア活動） ②支援学校との交流 ③第5地区高校生フェスティバル（異年齢交流）	①②参加生徒数 ③参加学校・生徒数、高齢者観客数	①全クラブ員の68.2% ②生徒自治会、クラブ2団体 ③生徒198人、学校11校、観客300人	①全クラブ員の75% ②生徒自治会クラブ2団体 ③生徒200人、学校12校、観客300人	①全クラブ参加 ②生徒自治会+クラブ2団体 ③生徒204人、学校13校、観客約300人	A	①②それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合 ③取組みが有意義だったと回答した生徒の割合、観客の満足度	①96% ②97.4% ③生徒99% 観客97%	①95% ②95% ③生徒・観客95%	①98% ②100% ③生徒・観客100%	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす <small>「小項目（はぐくみたい力）」 ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	⑥高い志	再編	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内（東京・九州）・海外へのサイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加学校・生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①のべ1,417人 ②7校、25人、3泊4日 ③128人 国内2泊3日 海外4泊5日	①のべ1,400人 ②15校40人、3泊4日 ③120人 国内2泊3日 海外4泊5日	①1,339人 ②12校、38人、3泊4日 ③137人、国内2泊3日、海外4泊5日	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①91% ②87.5% ③98%	①90% ②90% ③100%	①94.1% ②94.9% ③100%	A	継続	A	韓国の高校との相互交流を、将来の学びを明確にし、大学進学へのモチベーションを高め、意識化させる仕掛けとしていることは評価できる。 土曜日の活用についても、あえて授業ではなく、講習を充実させることで進路実現の一助としている。 体験型の進路学習として実施している1年の職業体験や、2年での大学の研究室訪問など、調査したことをまとめ、発表し、情報を共有する取組はとくに優れている。	
		⑦進路実現	充実	土曜講習	実施日数	1年 19日 2年 19日 3年 18日	全学年18日以上	1年：23回 2年：22回 3年：31回	A	土曜講習が学力向上や進路実現（決定）に役立ったと回答した生徒の割合	83%	90%	81%	B	充実			
	IV. 教員の指導力向上をめざす <small>「小項目（はぐくみたい力）」 ・授業力向上 ・教材開発</small>	⑧授業指導力向上	充実	研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組の実施回数	研究授業3回 研究協議2回 授業参観2回	研究授業6回 研究協議4回 授業参観2回	研究授業7回 研究協議7回 授業参観6回	A	本校の授業は、知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃いと回答した生徒の割合	73%	80%	79%	B	充実	A	学年主導ではなく「学力向上委員会」を新規に設置し、効果的な指導体制の再構築を検討していることなど、校長のマネジメント力が伺える。 また、ICTの活用が進み、多くの教員が電子黒板を活用するようになってきていること、民間教育機関を活用した進路指導研修の実施、アクティブラーニングや反転授業を取り入れている教員の増加などは評価できる。 今後より一層の充実を期待する。	
		⑨進路指導力向上	新規	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	- -	3回 60人	9回 95人	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	83%	85%	87%	A	充実			
		⑩教材開発、授業効果の向上	新規	①補助教材（オリジナル）の工夫 ②Can-doリストの作成	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②作成教科数	①95% ②-	①100% ②3教科以上	①100% ②3教科	A	①生徒授業アンケート質問5（教科書の他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている）に対する評価 ②生徒授業アンケート質問9（授業を受けて知識や技能が身についた）に対する評価	①3.25/4 ②3.16/4	①3.3/4 ②3.2/4	①3.29 ②3.21	A	充実			
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果	平成27年度実績と平成28年度実績との比較から評価				AA	「最後まで生徒が自らの希望・目標をめざし続ける」指導が丁寧に実践できており、結果につながっている。 生徒の自主性をうまく活用し、教員がチームとなって指導する体制が構築されつつあり、今後の伸長が期待される。		
		大学入試センター試験への参加								大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	80.9%	85%	85.3%	A			継続	
		大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率 8割以上の生徒の割合	15.5%	20%	15.9%			B	継続
	VI. 課題研究活動	課題研究活動									課題研究活動を通して、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	91%	95%	94%	A	継続	AA	SSHの活動を核とし、理系の課題研究では実績をあげている。加えて、文系の課題研究もそのノウハウを実践に生かしており、その成果がGLHS合同発表会での優秀な成績につながったと考えられる。
		コンクール・コンテスト等の成果									入選数	9本	10本	9本	A	継続		
	VII. 英語運用能力	TOEFLIBT									TOEFLIBTスコア①80点以上の人数 ②60点～79点の人数	①0人 ②3人	①1人 ②5人	①0人 ②2人	C	継続	AA	TOEFLIBTチャレンジについて、着実に取り組んでいることが伺える。英検やGTEC for students等を学年で受験するなど、多面的に英語の総合力を高めようとしている点を評価する。今後は成果をいかに上げるかが課題となる。
		TOEFLIBT以外の英語外部検定試験									①GTEC for students ②実用英語技能検定	①Grade 7：16人、Grade 6：109人 ②準1級2人 2級226人	①Grade 7：20人、Grade 6：115人 ②準1級3人 2級230人	①Grade 7：3人 ②準1級：0人 2級：154人	C	継続		
	VIII. 進学実績	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）13校への進学者数（1浪含む）	47人	60人	57人	A	充実	AAA	進学実績については着実に成果をあげており、特に現役生徒の国立進学者数の上昇がめざましい。 学校として現状の背景への分析があり、指導の充実を図ってきたことが実を結んでいるようだ。今後は楽しみである。
		進学実績									近畿圏難関国立大学（京・阪・神）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	75人	90人	90人	A	充実		
		国立大学への進学									国立大学現役進学者数	126人	145人	152人	A	充実		
海外大学への進学										海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	0人	-	継続			

総合評価

ボランティア講座、支援学校や高齢者との交流など、社会性を育む体験型の学習の機会を設けており、グローバルリーダーに求められる高い社会貢献意識を育てている。「自由と創造」という校訓を自由&創造ではなく「創造のための（for）自由」ととらえなおし「&からfor」と示して、生徒に歩み寄った丁寧な指導体制が構築されている。
また、生徒同士が「チーム高津」として活動している点が進学実績のみならず、さまざまな面での成果となって現れてきていると考えられる。来年の100周年を機会に、食堂を改装してラーニングcommonsとする計画もあり、今後の教育活動がどこまで充実・発展していくのが楽しみである。

AA